

私の看護の原点

高校3年生の時医療に携わる仕事を目指すきっかけとなる、ある事故に居合わせた。私が居たキャンプ場の近くで、乗用車とバイクの交通事故があった。私が見に行った時にはバイクの男性がヘルメットの割れ目から血を流し、道路に倒れているのが見えた。そして、その近くで男性が「救命講習を受けた方はいませんか」と呼びかけているところだった。私は当時、救急救命士に憧れていたため、高校2年生の時に救命講習を受けていた。倒れている方から遠いところで見ている私は、誰も前に出ていないのを見て、私が行っても何もできない、邪魔になるだけだろうという気持ちと、知識の浅い私でも行けば何かできるかもしれない、という気持ちが入り混じり、近くに行くのを躊躇していた。迷っている中、何故自分でもそう思ったのかは分からないが、「私が行かなきゃ」と思い自然と足が倒れている方へと向かっていた。近くに行ってみるとキャンプ場に偶然居合わせた消防職員の方と看護師さんが心肺蘇生を行っていた。ぐったりと意識のない男性を目の前にし、初めての状況にとっても怖くなり声を震わせながら「私に何かできることはありますか？」と尋ねたところ、今は大丈夫との答えが返ってきた。私は何もできずにただ倒れている人の隣に立ち、何もできない自分が悔しくて、自分にもっと知識があればと思いながら2人の行動をみていることしかできなかつた。その時、隣にいた看護師さんが私の手を握り、「勇気を出して前に出てきてくれたんだよね。ありがとう。」と優しく微笑んでくれた。この時触れた手から看護師さんの優しい気持ちが伝わってきて、涙が溢れてきた。

この事故に居合わせるまでは、医療に携わる仕事に就けたらいいなと漠然と思っていたが、この事故をきっかけに絶対医療に携わる仕事に就くと決心した。そして、長く幅広い分野で働ける看護師を目指そうと思い、看護学校を受験した。入学してからの忙しさには正直驚いたが、尊敬できる先生方と出会い、勉学に励み実習を行っていく中で、どんどん看護が好きになっていった。

そして事故から1年経ち、ふと事故現場で出会った看護師さんのことを思い出した。その時、その当時は分からなかったが、怖くて、何もできない自分が悔しくて涙をこらえていた私に対して看護師さんは私の気持ちを汲み取り、思いを寄せてくれたのだと気づくことができた。そしてそれは私にとって看護の原点であった。そのことに気づくことができた時、私は出会った看護師さんに感謝の気持ちでいっぱいになった。

私は、あの時の看護師さんのように、率先して蘇生活動を行える1歩を踏み出す勇気と優しい笑顔で、患者さんの気持ちに思いを寄せることのできる看護師になりたいと思う。